

平成 28 年度

地球環境「自然学」講座

第 4 回

テーマ

象がいた湖「野尻湖」の自然と文化

講師

信濃町立 野尻湖ナウマンゾウ博物館 館長

近藤 洋一 先生

平成 28 年 5 月 28 日 (土)

NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール
近藤 洋一（こんどう よういち）



1955 年 東京生まれ

信州大学大学院博士課程終了 理学博士

1984 年 野尻湖ナウマンゾウ博物館開館当時から学芸員として勤務

2016 年 野尻湖ナウマンゾウ博物館 館長

学生時代から野尻湖発掘に携わり、現在野尻湖発掘調査団の事務局を担当する

専門は、古脊椎動物学、第四紀学、

日本各地のナウマンゾウの研究や古型マンモスの研究もすすめている。

共著 最終氷期の自然と人類、一万人の野尻湖発掘など

ゾウのいた湖「野尻湖」の自然と文化

野尻湖ナウマンゾウ博物館

近藤 洋一

1 はじめに —第 21 次野尻湖発掘—



図1 第21次発掘（2016年3月）

2 野尻湖の生い立ちと変遷

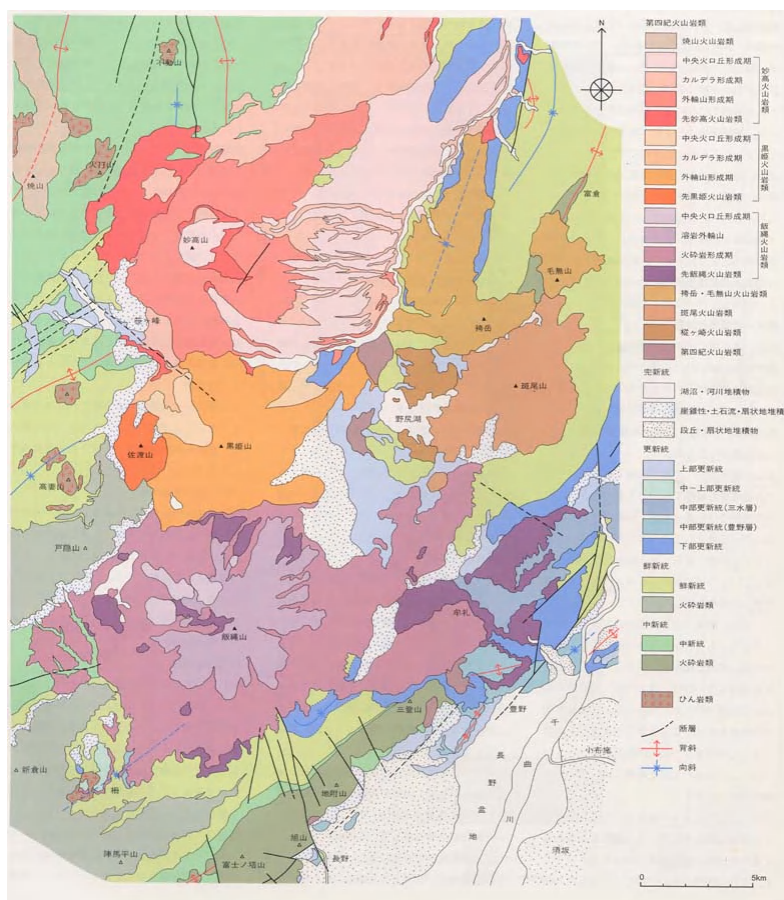


図2 野尻湖周辺の地質（赤羽、1996）より

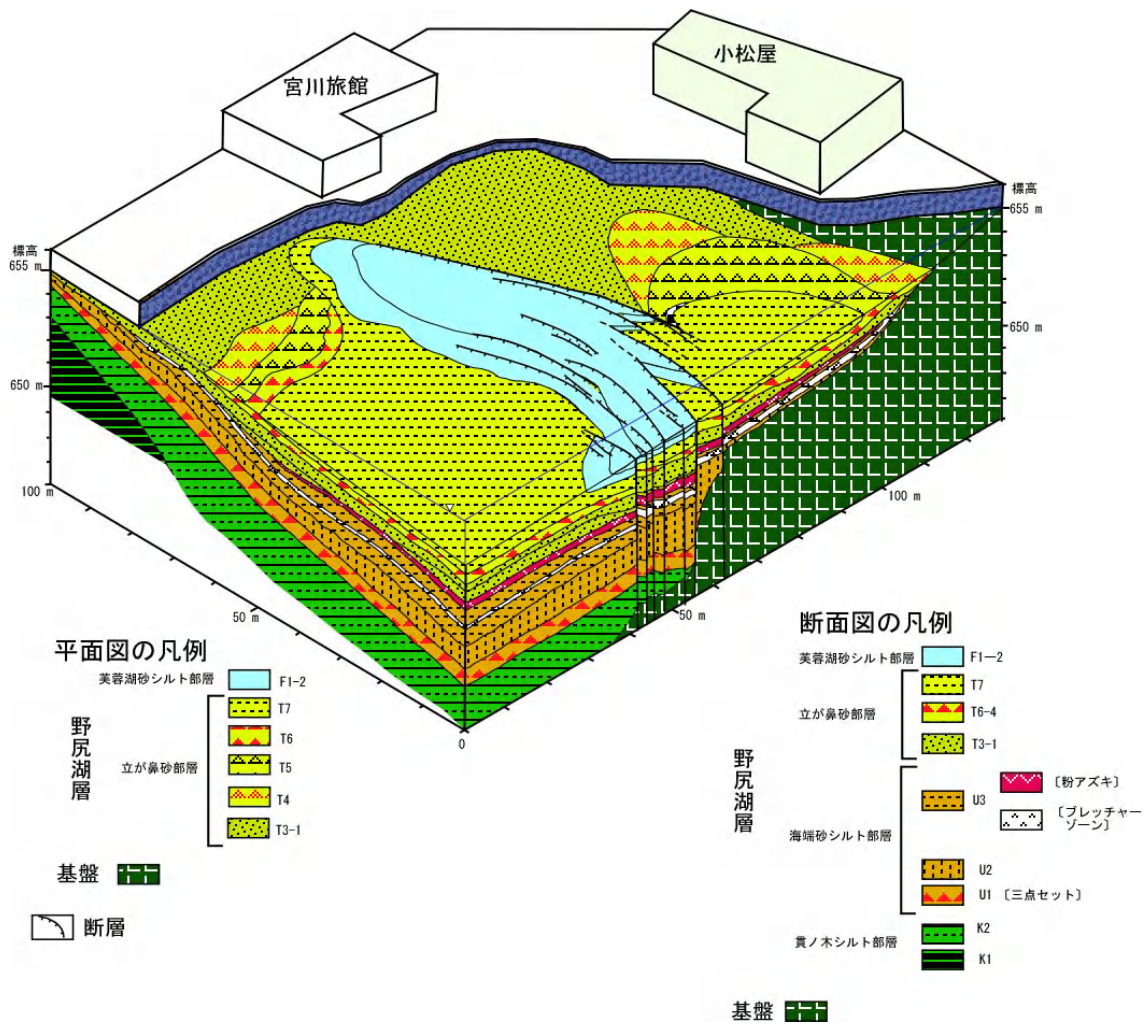


図3 野尻湖発掘地のブロックダイアグラム（野尻湖発掘調査団、2011）

3 ナウマンゾウのいた時代

—氷河時代の動物相—



図4 ナウマンゾウの復元像
（野尻湖ナウマンゾウ博物館）

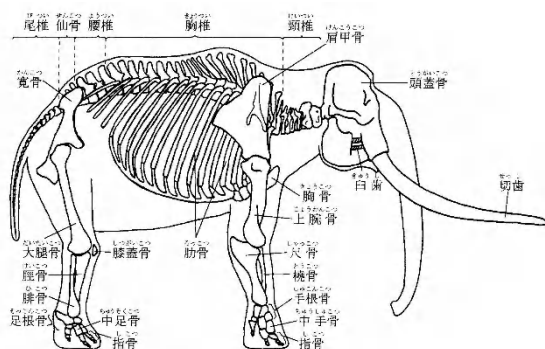


図5 ナウマンゾウの骨格図
（野尻湖哺乳類グループ、2011）

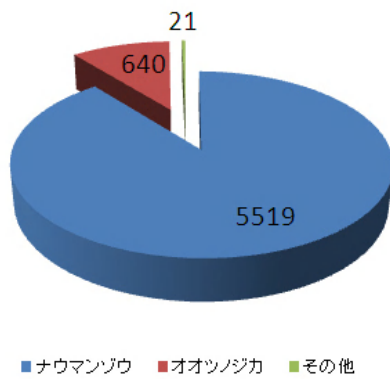


図6 脊椎動物化石の産出割合
(野尻湖哺乳類グループ、2011)



図7 オオツノジカの復元像
(野尻湖ナウマンゾウ博物館)

4 野尻湖周辺の古環境

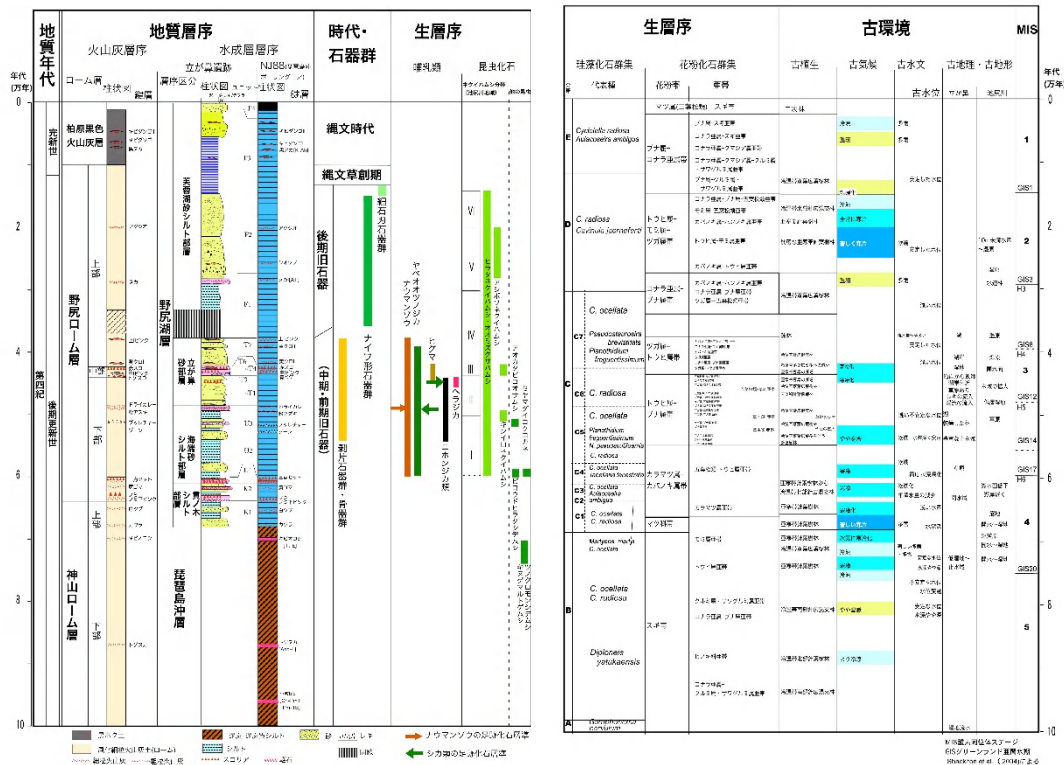


図8 野尻層発掘の総括表 (野尻湖発掘調査団、2011)



図9 古環境を示す野尻湖産出の化石 (右：昆虫化石、中央：花粉化石、左：植物化石)

5 キルサイトの証拠をもとめて

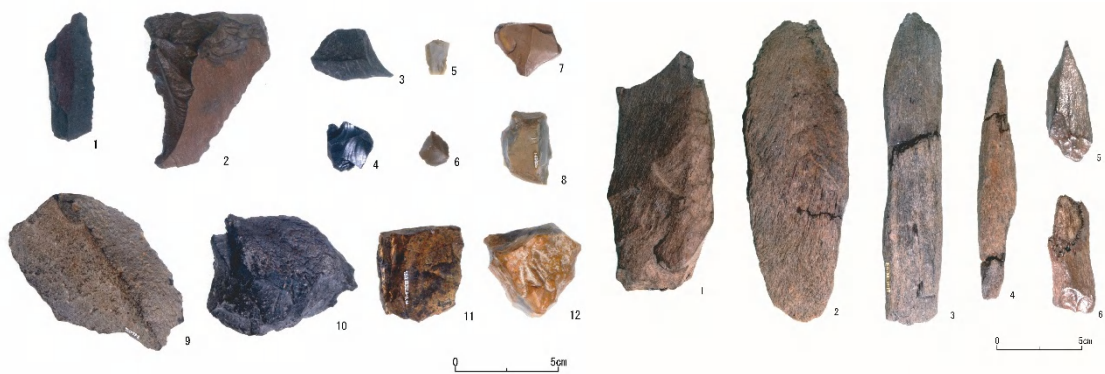


図 10 発掘された石器

図 1 1 発掘された骨器

(野尻湖人類考古グループ、2011)

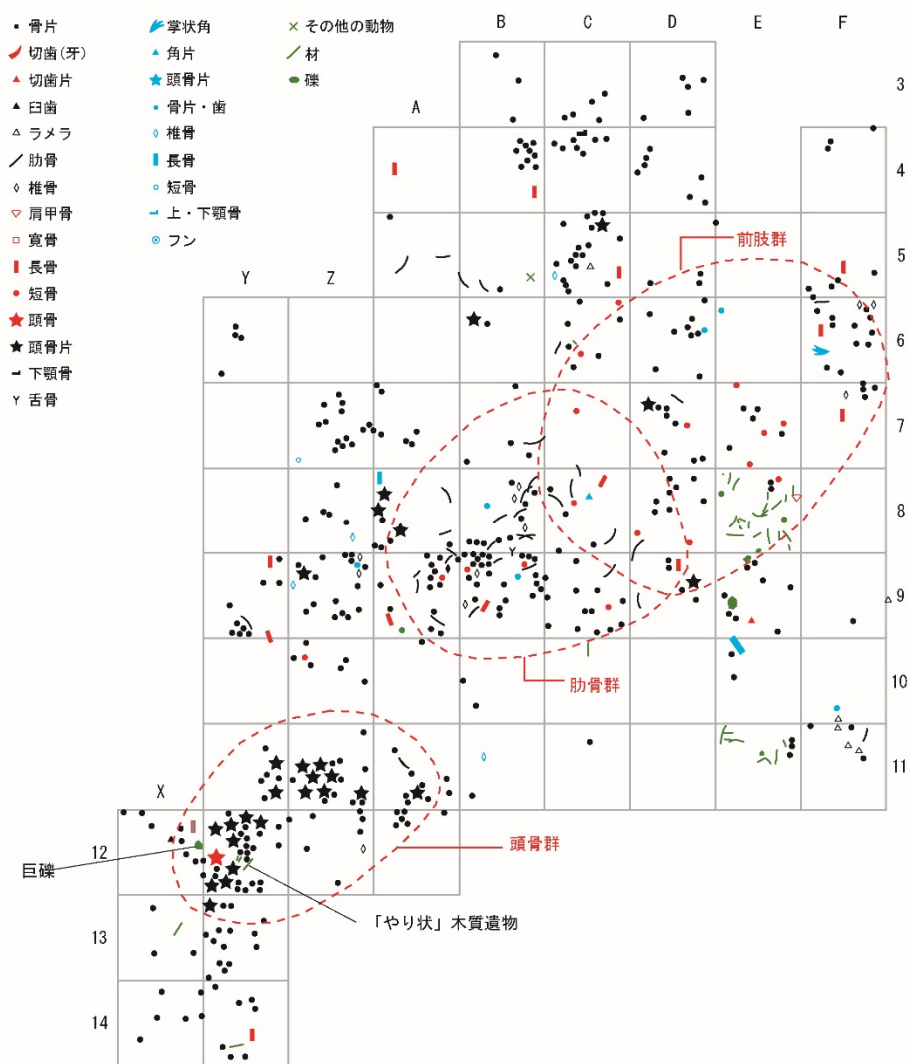


図 1 2 立が鼻砂部層 T 4 ユニットにおける化石と遺物の分布

(野尻湖発掘調査団、2011)